

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 7 部門第 2 区分
 【発行日】平成25年2月7日 (2013.2.7)

【公表番号】特表2008-532317(P2008-532317A)
 【公表日】平成20年8月14日 (2008.8.14)
 【年通号数】公開・登録公報2008-032
 【出願番号】特願2007-558077(P2007-558077)
 【国際特許分類】

H 0 1 L 21/02 (2006.01)

H 0 1 L 27/12 (2006.01)

H 0 1 L 21/265 (2006.01)

【F I】

H 0 1 L 27/12 B

H 0 1 L 21/02 B

H 0 1 L 21/265 Q

【誤訳訂正書】
 【提出日】平成24年12月11日 (2012.12.11)
 【誤訳訂正 1】
 【訂正対象書類名】明細書
 【訂正対象項目名】0 0 9 0
 【訂正方法】変更
 【訂正の内容】
 【0 0 9 0】

好ましい実施形態では、本発明は、図 27 に示されているように、ドナー基板構造に剛性を追加するためにバッキング基板 2701 を用意する。好ましくは、バッキング基板は、ドナー基板からのシリコン担持材料の層をハンドル基板の正面に転写するのに適切な、少なくともバッキング基板とドナー基板からなるマルチレイヤ構造の有効たわみ特性を与えるのに適切な厚さと材料を有し、これを下でより詳細に説明する。単に例として、バッキング基板は、ドナー基板と比較してより厚いシリコン・ウエハとすることができる。そのようなバッキング基板は、 $725\mu\pm 15\mu$ の厚さを有することができ、たとえば 200mm ドナー／ハンドル／バッキング基板構造を備える単結晶シリコンから作られる。そのような基板は、約 130GPa のヤング率を有する。プラスチック、金属、ガラス、石英、複合物、それらの類似物など、他のタイプの材料や厚さを使用して、組み合わせられたバッキング基板構造とドナー基板構造に剛性を与えることができる。もちろん、当業者は、他の変形形態、修正形態、代替形態を認めるはずである。